
アノミー

ケニーD

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アノミ

【Nコード】

N1785BA

【作者名】

ケニード

【あらすじ】

動ナビ5号として書いていたネタの改稿版です。

王将の餃子を持ち帰り、家で焼いてひとりで食べました。

ホットプレートの上でちりちり焼ける餃子を茫と眺めながら、グラスについだビールをぐびり。

こういう一人の生活を送っていることを人に言くと、さみしいなあ、と返されたりするわけですが、さみしさなんてありません。

餃子を焼けば、ホットプレートの上で、熱いよテンさん、テンさんゝと助けを求める声が聞こえますから、その瞬間はひとりじゃないんです。

そう、人は耳を済ませれば、何かしらの声が聴こえるもの。風の声や、植物、動物の声に隣の喘ぎ声だって聴こえるんです。

私はそのなかから、テンさんに助けを呼ぶ声を聞いたというだけで、これを書いている今だってほら、どこかで殺されそうになっている女の悲鳴がたくさん聞こえます。

でもまあそれより、餃子ですよ。声の話なんかする気はこれっぽっちもなく、餃子とビールと静かな夜の柔らかさを書きたかっただけなんです。

それがなぜか、毎度のように脱線です。人生脱線、駄文も脱線。ずっとずっと脱線ばかりの人生でした。

親にしかれたレールは10歳のころにテロで爆破され、他人を蹴落して乗ったレールは逆方向。そこからずっと脱線です。

でもね、電車は脱線すれば事故ですが、人間はそうじゃない。自分でレールをしけばいいんです。いくらでもしければいいんです。

それが面倒だから、脱線したまま生きてます。私はこの先、どうすればいいんでしょうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1785ba/>

アノミー

2012年1月5日18時46分発行